



目標—指導—評価の一体化のための学習評価



# 中学校美術科のポイント



中学校美術科における題材の評価規準は、実施する「内容のまとめり(感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕」、「目的や機能などを考えた表現「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕」、「作品や美術文化などの鑑賞「B鑑賞」〔共通事項〕」ごとの評価規準を基に題材の内容に合わせて設定することが考えられます。

ここでは、題材名「花の命を感じて(第1学年)」について、評価規準の作成から評価の総括までの流れを紹介します。



**題材名**

「花の命を感じて」(第1学年)

**内容のまとめり**

第1学年 「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」及び「作品や美術文化などの鑑賞」

## I 題材の評価規準を作成する流れ

**[Step1]** 学習指導要領「各学年の目標及び内容〔第1学年〕2 内容」の記載事項を確認します。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
<p>〔共通事項〕</p> <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。</p> <p>イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。</p> <p>〔A表現〕</p> <p>(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身につけることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。</p> <p>(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。</p>	<p>〔A表現〕</p> <p>(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。</p> <p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p>	<p>楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p> <p>〔第1学年 1目標 (3)の記載〕</p> <p>※内容には、「学びに向かう力, 人間性等」について示されていないことから、当該学年の目標(3)を参考にします。</p>

**[Step2]** 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。</li> <li>造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</li> <li>材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</li> <li>材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。</li> </ul> <p>※文末は「～している。」となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴の美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</li> </ul> <p>※文末は「～している。」となります。</p>	<p>美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※文末は「～しようとしている。」となります。</p> <p>※学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成</p>

※同様に鑑賞についても「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。

※「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」は「参考資料」の巻末にすべての学年分掲載されています。

**[Step3] 題材の目標を作成します。**

この題材は内容のまとまり「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」及び「作品や美術文化などの鑑賞」の2つを扱うため、この2つの内容のまとまりごとの評価規準の考え方を踏まえて作成します。

題材名 「花の命を感じて」

題材の目標

- (1) ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。  
・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。
- (2) ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。  
・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。
- (3) ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく花の美しさや生命感などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

**[Step4] 題材の評価規準を作成します。**

題材の評価規準の作成は、【Step2】「内容のまとまりごとの評価規準」を基に題材の内容に合わせて作成することが考えられます。本事例では、【Step2】「内容のまとまりごとの評価規準」の一部( )を、題材の内容に合わせて関連する表現( )に変更したり、複数の「内容のまとまりごとの評価規準」を組み合わせてたりして作成しています。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>この観点は、表現及び鑑賞の活動を通して、「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価するものになります。</p> <p><b>技</b> ・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p> <p>この観点は、造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法などを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価するものになります。</p> <p>※文末は「～ている。」となります。</p> <p><b>知</b>= 「知識・技能」の知識に関する評価規準 <b>技</b>= 「知識・技能」の技能に関する評価規準</p>	<p><b>発</b> ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>この観点は、造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどとの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価するものになります。</p> <p><b>鑑</b> ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p> <p>この観点は、造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価するものになります。</p> <p>※文末は「～ている。」となります。</p> <p><b>発</b>= 「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準 <b>鑑</b>= 「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準</p>	<p><b>態表</b> ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>この観点の評価対象は、生徒が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度になります。</p> <p>※文末は「～ようとしている。」となります。</p> <p><b>態表</b>= 表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準 <b>態鑑</b>= 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準</p>



				<p><b>知・技</b> 作品から水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているかなどを見取るとともに、形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを併せて見取り、<b>知</b>と<b>技</b>を<b>知・技</b>として一体的に評価する。【作品、アイデアスケッチ、ワークシート等】</p> <p><b>発</b> 主題の変化や配色計画などの構想を含めて、発想や構想を再度見取り評価する。【作品】</p> <p><b>態表</b> 楽しく制作に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようし、意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。【完成作品、活動の様子】</p>
<p>3. 鑑賞（1時間）</p> <p>●生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。</p> <p>・お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。</p> <p>・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。</p>	<p>知</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p>	<p>発</p> <p>↓</p> <p>態表</p> <p>↓</p> <p>態鑑</p> <p>↓</p> <p>態鑑</p>	<p><b>知</b> 形や色彩などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しているかどうかを見取り、できていない生徒に対して具体例を示すなどの指導を行う。【ワークシート、発言の内容】</p> <p><b>技</b> <b>態表</b> 発想や構想をしたことなどを基に、意図に応じて様々な表し方を試して身に付けた水彩絵の具の生かし方を活用し工夫して表しているかどうかや、意欲的に工夫しているかなどの態度を見取り、実現できていない生徒に対して主題をもう一度見直させたり、表現の意図と水彩絵の具で試したことと関連させて再考させたりするなどの指導を行う。【制作途中の作品、活動の様子】</p> <p><b>態鑑</b> 楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようと、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【完成作品、活動の様子】</p>
<授業外:題材が終了後>	<p>知・技</p> <p>↓</p>	<p>鑑</p> <p>↓</p> <p>発</p>		<p><b>知・技</b> 完成作品やワークシートなどから<b>知</b>・<b>技</b>の評価を再確認し、必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p> <p><b>鑑</b> 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】</p> <p><b>発</b> 発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正する。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】</p>

### Ⅲ 観点ごとに総括的な評価を行う

観点	「知識・技能」		「思考・判断・表現」			「主体的に学習に取り組む態度」			
	評価規準	評価	評価規準		評価	評価規準			評価
氏名	<b>知・技</b>		<b>発</b>	<b>鑑</b>		<b>態表</b> (第一次)	<b>態表</b> (第二次)	<b>態鑑</b> (第三次)	
い	A	A	B	A	B	B	A	A	A
ろ	B	B	A	B	A	B	A	B	B
は	C	C	C	B	C	C	C	B	C



あらかじめ総括する方法を決めておくことが大切です！

例えば、学習のねらいや時間数等に応じて、ある場面の評価に重みを付けて評価の総括を行うことが考えられます。

例えば、評価結果のうち、最も数の多い記号が、観点ごとの学習状況を最もよく表しているという考え方に立って評価の総括を行うことが考えられます。